

明日を語ろう!
北の農業人
KITANO NOUGYOUBITO



●次世代につなぐ、農業への夢と希望

子どもたちが「農業ってカッコイイ」と思ってくれたらうれしい。
産業用無人ヘリコプターが、
農業の新しい可能性を広げてくれた。

【栗山町】
国岡正好さん（水稲栽培）



●国岡農場では「ほしのゆめ」「おほろづき」のはか、酒米の「吟風」や「群星」、小麦、バレイショ、スイートコーンなどを栽培しています。

北海道初の
農業者オペレーター

水田と丘陵地が連なる栗山町継立地区。ここで水稲栽培を手がける国岡正好さんは、平成2年（1990年）から、水稲の防除作業に無人ヘリコプターを使用しています。導入当時は、北海道で本格的な産業用無人ヘリコプターの運用が始まったばかり。オペレーター資格を持つ農業者として、国岡さんは先駆的なケースでした。

その頃の国岡さんは、大規模・大規模での水稲栽培に取り組みたいと考えていました。「労働力をカバーするために、2軒共同で防除作業をしていました。でも、水田1枚あたりの規模が大きくなると、散布用ホースを引きながら撒く作業が重労働にな

ります。水田に立ち込まなければならず、女性にはとてもできませんでした。そこをなんとかしたい、と思っていたときに、無人ヘリコプターを知りました」

防除作業が軽減されること、農業の飛散が少なく適所に散布できること。国岡さんに迷いはありませんでした。栗山町の助成制度を活用して補助を受け、継立地区での共同購入という形式で「R50」を導入。もう一人の仲間とともに無人ヘリコプターの運用を開始しました。

防除作業の効率化と
省力化に取り組み

当時、北海道で無人ヘリコプターを導入していたのは農協などの団体が中心で、国

子どもが夢と希望を
持てる農業

「防除は時間と手間がかかる、という常識を覆しました。現在では、継立地区と日出地区の一部を合わせて、12戸分の防除を請け負っています」

「除けは時間と手間がかかる、という常識を覆しました。現在では、継立地区と日出地区の一部を合わせて、12戸分の防除を請け負っています」

「除けは時間と手間がかかる、という常識を覆しました。現在では、継立地区と日出地区の一部を合わせて、12戸分の防除を請け負っています」

「除けは時間と手間がかかる、という常識を覆しました。現在では、継立地区と日出地区の一部を合わせて、12戸分の防除を請け負っています」

●17年前の導入当初は苦勞もあつた、と笑いながら話す国岡さん。「当時の機種はすべてマニュアル操作。思い通りに飛ばすのが難しく、一年目は北日本スカイテックの方に付ききりで指導してもらいました。続けてくれたのはインストラクターさんのおかげです」



●「食べた人が『おいしい!』って言うのが、何よりうれしいね」と国岡さん。直売所の設置や取機体験など、農業の新しい魅力づくりにも取り組んでいます。